

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人01	人間と哲学の知	2	2-0	1~4	前又は後	西洋哲学の基本的な領域を概観しつつ、人間と世界について考える。	
人02	人間と世界	2	2-0	1~4	前又は後	西洋哲学を概観しつつ人間と世界について考える。	
人03	思考の論理入門	2	2-0	1~4	前又は後	論理学の基本的な領域を概観しつつ、人間の論理的な思考について考える。	
人04	思考の論理	2	2-0	1~4	前又は後	論理学を概観しつつ、人間の論理的な思考について考える。	
人05	西洋思想とインドの思想	2	2-0	1~4	前又は後	西洋思想とインド思想を比較検討しつつ、それぞれの思考様式を明らかにする。	
人06	西洋思想と日本・中国の思想	2	2-0	1~4	前又は後	西洋思想と日本・中国の思想を比較検討しつつ、それぞれの思考様式を明らかにする。	
人07	生き方の探究	2	2-0	1~4	前又は後	倫理学の基本的な領域を学びつつ、生き方について考える。	
人08	人間と倫理	2	2-0	1~4	前又は後	倫理学を学びつつ、人間について考える。	
人09	環境の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	環境の保全と保存、土地倫理、共有地の悲劇と救命艇倫理、宇宙船倫理、世代間倫理等、環境倫理学における種々の考え方を検討し、さらに、その背景をなす人間観、自然観等を考察する。	
人10	心の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	本講義は心をめぐる哲学的な問題を論じるものであり、今日では「心の哲学」と呼ばれる分野を成している。近代以降の心身二元論から21世紀の最先端の話題について、幅広くカバーし、「心」の本性について哲学の立場から論じる。	
人11	心の科学	2	2-0	1~4	前又は後	人間の心と行動を科学的に理解するために、知覚、学習、記憶と思考など、心理学の基礎的側面を中心に概説する。	
人12	人間関係論	2	2-0	1~4	前又は後	人間の発達、パーソナリティ論、社会行動などを通して、自己と他者、対人関係についての理解を心理学的に深めることを目的とする。	
人13	心の実験室	2	0-2	1~4	前又は後	実際に心理学的実験や調査法を体験することによって、人間行動の法則を理解するとともに、心理学的な研究方法についての理解を深める。	
人14	アジアの人生観	2	2-0	1~4	前又は後	本講義では、我々日本人自身が規範とし、西欧すら動かした儒教思想について、朱子学・陽明学の視点から概説する。	
人16	科学技術の倫理	2	2-0	1~4	前又は後	科学技術に携わるものが遵守すべき倫理的規範について、具体的な事例研究を用いながら検討する。	
人17	生命倫理	2	2-0	1~4	前又は後	生命倫理学を中心に、安楽死と尊厳死、脳死と臓器移植、クローン、ケア論等について検討し、あわせて生と死、人間等について考えてみたい。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受講 年次	学期	講義内容	備考
人18	「私」の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	哲学の視点を援用しながら、「私とはなにか」という問題を学生とともに考え、学生みずからが考える力をやしなう。	
人19	人間と宗教	2	2-0	1~4	前又は後	多くの宗教に共通する一般的な特徴を中心に紹介しながら、人間にとって、あるいは社会にとって宗教とはどのような意味・役割をもつかについて考える。	
人20	人間観と教育	2	2-0	1~4	前又は後	多様な教育についての考え方を、それを根底で支える人間観と共に紹介し、現代にふさわしい人間観、および教育のあり方について考える。	
人21	近代日本の社会と表現	2	2-0	1~4	前又は後	各時代を代表する作品を取り上げ、作品が時代をどのように浮かび上がらせたか、又、作品が時代によって、どう読まれたかを探る。	
人22	日本古典文学の世界	2	2-0	1~4	前・後	古事記を通して、古代日本人の神話的想像力及び古代日本の民俗の現象について考察していく。	
人23	文学の楽しみ	2	2-0	1~4	前期	大衆文学の代表的作家（司馬遼太郎、松本清張、水上 勉等）を取り上げ、彼等の作品が何故、多くの人々に愛され読まれているか、その魅力を探っていく。	
人24	小説の社会学	2	2-0	1~4	後期	小説を“社会”とのかかわりで読解し、ある集団・国民の意識、神話、ある時代の文化、精神構造を探る手がかりとする。	
人25	ことばの生態	2	2-0	1~4	前又は後	私たちは「ことば」を使って生きている。「ことば」は社会生活・文化活動を営む上での基礎となっている。一見自明に見える「ことば」、その「ことば」の本質、生理、認知、機能及び生活の中の「ことば」について考察する。	
人26	ことばの構造と意味	2	2-0	1~4	前又は後	意思疎通の優れた手段としての言語の仕組みがどのようなものなのか、意味とは何かなど日本語なり、英語なりの個別言語の体系と意味を考察し、その深層を探る。	
人27	日本語のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	日本語の発生、系統をはじめ、その文法、音韻等について体系的なしくみを学ぶと共に、日本語の現在、及び日本語研究の問題点を考察していく。	
人27-1	日本語のはたらき	2	2-0	1~4	後期	日本語について、言語の基本的な単位としての「単語」と、言語活動の基本的な単位としての「文」について学ぶ。言語の持つ普遍性の中で、日本語の持つ個性を確認しながら、「単語とは何か」「文の中で単語がどのように使われ、機能しているか」について学ぶ。身近な日本語の使われ方について、具体的に考えながら、日本語の文法体系について、その真の姿についての理解を深める。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人28-1	中国古典文学の世界	2	2-0	1~4	前・後	中国の文学は、その時間的なスケールの長さや内容の多様さにおいて世界に類を見ない豊かさを持っている。漢字に載せて運ばれた思想と美的表現は周辺の国々に強い影響を与えてきた。日本の文学を理解するうえで中国の文学、歴史、思想等を理解することは、基本的な前提条件である。本授業では中国の古典文学について講義する。	
人28-2	20世紀の中国文学	2	2-0	1~4	前・後	中国の文学は、その時間的なスケールの長さや内容の多様さにおいて世界に類を見ない豊かさを持っている。漢字に載せて運ばれた思想と美的表現は周辺の国々に強い影響を与えてきた。中国の近現代文学にはこの国の社会的、歴史的な条件の中で翻弄された人々の思想と生活が反映されている。本授業では中国の近代・現代文学について講義する。	
人29	アメリカの文学と社会の誕生	2	2-0	1~4	前期	アメリカ文学主要作品の講読・解説を基礎に、アメリカ文学及び社会を理解する。本科目は、特にアメリカの宗教と文学に焦点を絞って考えて見る。	
人30	アメリカの文学と近代社会	2	2-0	1~4	後期	アメリカ近代文学の主要作品の講読・解説を中心に南北戦争から現代に至るアメリカの文学と社会及び文化について考える。	
人41	歴史を掘る	2	2-0	1~4	前・後	土の中から掘り出される遺跡・遺物を通して人類の歴史を解き明かす方法を考える。	
人42	東洋の歴史と文化	2	2-0	1~4	前・後	東アジアの前近代から近現代までの歴史と文化を様々な視点から総合的に講義する。	
人43	西洋の歴史と文化	2	2-0	1~4	前・後	ヨーロッパ・アメリカの歴史と文化を様々な視点から総合的に講義する。	
人44	日本の歴史と文化	2	2-0	1~4	前又は後	日本の歴史と文化を様々な視点から総合的に講義する。	
人45	朝鮮の歴史と文化	2	2-0	1~4	前・後	朝鮮の歴史と文化を様々な視点から総合的に講義する。	
人46	考古学入門	2	2-0	1~4	前・後	考古学は、物質資料（遺跡・遺物）から、過去の人類の生活を究明する学問である。本講義では、考古学研究の歩みを踏まえながら、調査の方法、分析の方法や基本的な考え方をわかりやすく整理し、遺跡・遺物から何がわかるかを具体的に学ぶことを目的とする。	
人47	宗教と世界	2	2-0	1~4	前又は後	世界の主要な宗教について、その教義や歴史などを概説する。宗教が関係する諸問題についても取り上げる。	
人51	音楽の世界	2	2-0	1~4	前・後	古代ギリシャから琉球までの音楽を鑑賞しながら音楽史、音楽美学、演奏の問題等について考える。	
人52	美術の世界	2	2-0	1~4	前・後	美術の広範な領域から特定の課題を設定し講義する。（クラス毎に内容が異なることがあるので共通教育等科目授業計画書に注意すること。）	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人54	オーケストラの楽しみ	2	0-2	1~4	前・後	フルオーケストラを基本とし、管弦打楽器それぞれの基本的なアンサンブルを高めることを目的にクラシック音楽からポピュラー音楽までの幅広い経験をする。それを通して、音楽の深さ豊かさを体感することをその目的とする。	
人55	コーラルアンサンブルの楽しみ	2	0-2	1~4	前・後	合唱訓練を通して、歌唱に必要な呼吸法・発声法・音楽表現法を学ぶとともにアンサンブル力向上の過程で必要とされるメンバーの相互理解・協調性を陶冶し、豊かな人間性形成を目指す。選曲もクラシックにこだわらず、ポップス等の名曲も積極的に取り上げる。	
人56	楽しく学ぶギター弾き語りⅠ	2	0-2	1~4	前期	ギターの持ち方、調弦法、ハ長調やト長調の基本コードのポジションの学習から始め簡単な弾き歌いを修得する。	
人57	楽しく学ぶギター弾き語りⅡ	2	0-2	1~4	後期	前期に続きギターの弾き歌いのテクニックを学習する。前期の内容を発展させ、扱う調性・コードを増やし、さらに詳しく学習する。	隔年開講
人58	ステージスタッフ総合活動	2	0-2	1~4	前期	総合舞台芸術を陰で支えるステージスタッフの存在無くしてはいかなるステージ・パフォーマンスも成り立たない。この授業では、背景画・美術道具・衣裳・メイクサポートなどを演習をとおして学び、集団活動をとおしての自律性・問題解決能力・社会性・コミュニケーション力を身につけていく。	
人60	美術って何？	2	2-0	1~4	前又は後	美術の歴史は、イメージの歴史です。それは、各時代、各地域で、人々が自分自身を取り巻く世界をどのように認識してきたかの表出の歩みともいえます。ルネッサンスに成立した透視図法の絵画空間や、その解体であるキュビズムの絵画空間、さらに非西欧の絵画空間、そして現代美術のあり方を見て行くことで、それらの世界の認識の仕方についての理解を深め、ひいては、現代における私たちにとっての「美術」の意味について共に考察していくことができると思います。	
人61	美術と社会	2	2-0	1~4	後期	私たちを取り巻く環境そしてそれぞれの経験から成る表現活動を人類の、文化の流れと共に考察する。美術史上及び現代の作家による作品やプロジェクトを検討する。	
人62	色彩の世界	2	2-0	1~4	前又は後	色料・色材が発達するにつれて、取り扱う色の範囲が著しく拡大され、かつ複雑なものとなってきた。生活環境は、過去と比較できないほどバラエティに富んだ色彩に満ちあふれその色の数は膨大な量となっている。造形要素のなかで、色彩はすべてに通底しており、さらに、わたしたちの生活に常に深くかかわっている。この授業では、色彩の基礎的内容の研究を中心に色彩の諸性質を正しく把握し、造形と色彩表現との関わりをさぐる。また、風土や文化に関わる色についても考察する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
人64	陶芸の世界	2	2-0	1~4	前又は後	縄文時代から今日まで、人々はどのように「やきもの」とかかわり、発展させてきたのか。その技術的特徴や造形性の変遷について、日本での成り立ちを軸に概説する。	
人67	比較思想文化論	2	2-0	1~4	前又は後	世界には様々な思想や文化が存在している。どのような思想や文化も地域性や時間性という制約の下にある。それ故、それらの違いがまず強調されるであろう。しかし、それらの中には共通性も見出される。本講義では、世界の思想や文化を、比較という観点からその共通性や相違に着目して、論じる。	
人68	日本語研究入門	2	2-0	1~4	前又は後	日本語について、言語の基礎的な単位である「単語、連語、文」について学ぶ。言語のもつ普遍性の中で、日本語のもつ個別性を確認しながら、「単語とは何か」・「単語が文の中でどのように使われ、機能しているか」について学ぶ。身近な日本語について考えながら、日本の文法体系についてその真の姿について理解を深める。	
人91	人文系特別講義Ⅰ	2		1~4	前 期	開講時に公示する。	集中講義
人92	人文系特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
社01	法と社会	2	2-0	1~4	前・後	法の内容、目的、効力、適用など、法と社会の諸問題について考える。	
社02	憲法概論	2	2-0	1~4	前・後	憲法についての基礎的知識及び日本国憲法の概要。	
社03	現代政治の課題	2	2-0	1~4	前・後	現代の日本政治を多面的に分析し、そこから日本政治の課題を導き出し、解法の方法を提示する。その際、日本の政治風土、政治文化についても論及し、日本の政治像の全体的な把握を目指す。	
社04	日本の政治	2	2-0	1~4	前又は後	政治学には政治理論、政治史、政治思想史、政治制度、政治過程、政党制、公共政策、地方自治などの様々な分野が方撰されるが、これらをわが国の政治状況に焦点を絞って考察することによって、日本の政治に関する関心と基礎知識を養う。	
社06	戦争と平和の諸問題	2	2-0	1~4	前・後	「戦争を防ぎ、平和を達成するにはどのようにすればよいのか？」という問題意識に基づき、広く戦争と平和に関する諸問題を扱う。さまざまな角度から21世紀国際社会に平和を定着させる方法を考える。	
社11	地域と生活	2	2-0	1~4	前・後	地域と人々の暮らしとの関わりを、人文、自然の両面から考察する。	
社12	現代社会のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代社会のしくみと変動について、沖縄の事例も取り入れながら考察する。	
社13	マスコミと社会	2	2-0	1~4	前・後	現代社会におけるマスコミと大衆の関わりについて考える。	
社15	人類文化の比較	2	2-0	1~4	前・後	家族と親族、宗教と世界文化とパーソナリティ等、人類文化の諸分野について比較考察する。	
社18	消費者の自立	2	2-0	1~4	前期	消費者問題の背景、消費者のライフスタイルと環境、消費者の権利と責任、消費者の問題の解決に必要なとされる法律等、自立した消費者に必要な知識と実践力を養う。	
社21	現代経済のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代社会を構成するミクロ・マクロの経済主体の行動と市場メカニズムを学ぶことにより、経済の資源配分のしくみと雇用・物価・生産の変動というマクロ経済の変動メカニズムを探究する。	
社22	経済の歴史	2	2-0	1~4	前・後	人類の悠久の歴史は、人と人との織り成す歴史である。この中でも資本主義の成立過程は激烈であった。そこで本講義では、資本主義がどのような歴史過程を経て成立したのかをとらえる。	
社23	現代経営のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代経営のアップ・トゥ・デートな話題を取り上げ、考察する。なお、平成23年度からは、起業家インターンシップ、ビジネスアイデア・コンテスト参加も講義内容に含める。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
社24	現代流通のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	生活者の視点から小売業、卸売業、製造業を含む現代流通のしくみと流通政策について、その現状、歴史、問題点等について考察する。	
社25-2	情報メディアと創造性	2	2-0	1~4	後期	情報化が進展し、知識基盤社会となった21世紀に期待されている人材像や職業観・キャリア観を第一線で活躍中の実務家によるオムニバス講義を通じて考察し、創造的な生き方を探る。	
社26	現代会計のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	複式簿記の基礎を学び、現代企業の経済的成果や社会資本の形態を把握する方法を検討する。	
社28	現代経済の諸問題	2	2-0	1~4	前又は後	現代社会がかかえる財政、金融、失業環境などの諸問題について平易に概説する。	
社30	大学教育論	2	2-0	1~4	後期	大学でどのような学習経験をするべきか、という課題を扱う。受講生は学習課題として毎回指定するテキストについて予習ノートを作成し、それを基に受講生間でのディスカッションを行う。	
社31	教育政策史	2	2-0	1~4	後期	本講義では、日米の教育政策、教育制度の歴史を比較しながら、教育の市場化やテスト政策の進展といった現代の教育政策上の課題について考察するとともに、これまでの被教育経験を教育政策の観点から相対化する。	
社32	ベンチャー起業入門	2	2-0	1~4	前期	産学官連携による沖縄ビジネスアイデアコンテストと連動した実践的な講義により、起業に関する基本的な知識の習得のみならず、課題解決能力や自己表現力等、キャリア形成及び就業力の育成につながる起業家マインドと行動パターンを学ぶ。	
社33	ベンチャー起業実践	2	2-0	1~4	後期	問題解決型学習(PBL)を通じて、本学の研究シーズ、地域企業の課題、アイデアコンテストの入賞作品等をテーマとし、具体的なビジネスプランを作成する。 チームを編成し、仮想的に会社を立ち上げて、金融機関や企業、その他支援団体等へプレゼンを行う等、ビジネスプランの事業化のプロセスを体験する。	
社91	社会系特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
社92	社会系特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：自然系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
自01	大気の科学	2	2-0	1~4	前・後	地球大気現象についての系統だてた解説を通して、現代社会人としての地球科学的知識の向上と、科学的思考法（演繹法）の習練をはかる。	
自02	地球の科学	2	2-0	1~4	前・後	現代の地球上で起きている様々な地学的現象について解説し、46億年の地球史を地球環境と地球生命の変動を中心に概説する。	
自03	海洋の科学	2	2-0	1~4	前・後	地球の海に関する様々なテーマ（地球の海の起源と進化、海水の化学組成とその変遷史、海底の地学、海洋の大循環、海洋の生態系、サンゴ礁など）を取り上げ概説する。	
自04	宇宙の科学	2	2-0	1~4	前・後	宇宙の構造と進化及び惑星や太陽系の起源と進化などを取り上げ、分かりやすく概説する。	
自06	科学の光と影	2	2-0	1~4	後期	自然科学分野における各種法則の成立前後の歴史的背景と経緯を議論、現在広く受け入れられている自然科学の光の部分と影の部分について説明する。さらに、アインシュタインの相対性理論を一つの教材とし、科学的に思考することの鍵を学ぶ。自然環境と防災の観点から自然科学を問い直す。特に、沖縄の沿岸環境について言及する。	
自11	統計と社会	2	2-0	1~4	前・後	社会で使われている統計を例にしながら、その仕組みを講義する。	
自12	数理の構造	2	2-0	1~4	前・後	現代数学の仕組みについて、幾つかの話題をもとに講義する。	
自13	数の文化	2	2-0	1~4	前・後	数学と社会の関わりについて、幾つかの話題をもとに講義する。	
自21	時間と空間	2	2-0	1~4	前期	時間と空間に関する物理的理解や人間の宇宙観の変遷などについて概説する。	
自22	人間と物理学	2	2-0	1~4	後期	生活の中の物理学や物理学の歴史を通して人間と物理学との関わりを考える。	
自31	生活の化学	2	2-0	1~4	前又は後	生活に直接関連した物質の化学について概説する。	
自32	分子の世界	2	2-0	1~4	前又は後	物質を構成する分子の化学的性質などについて概説する。	
自41	生物の生活	2	2-0	1~4	前・後	さまざまな生物の生活とまわりの環境との関わりに重点をおいて考える。	
自42	生命の科学	2	2-0	1~4	前・後	生命のしくみを細胞レベルから考える。	
自51	パースの世界	2	0-2	1~4	後期	立体をリアルに表現する透視図法（パースペクティブ）の理論と描法を学ぶ。	
自56	都市環境と計画	2	2-0	1~4	後期	都市環境に関する計画理論と手法を学び、実際的な課題に対するケース・スタディを行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：自然系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
自57	ランドスケープ論	2	2-0	1~4	前・後	海岸線、水、緑地、公園、住宅地、集落などの土地利用のあり方を、ランドスケープの面から考察する。	
自58	環境デザイン論	2	2-0	1~4	前期	都市景観、外部空間、アメニティの表現としての環境デザインを考える。	
自61	地球環境と科学技術	2	2-0	1~4	前期	今日、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題が生じている。本講義では地球環境問題に対する理解を深め、それらの問題を解決するための科学技術について学習する。	
自62	天体観測を通して学ぶ宇宙	2		1~4	前期	天体観測を通して、宇宙・恒星・惑星・月等の天文学の基礎を学び、宇宙に関して理解を深めることを目的とする銀河系・太陽系天体、天体観測法、天体望遠鏡の仕組み、星座、天体の位置の表現法等は西原キャンパスで座学で学び、観測実習は石垣島天文台105cm反射望遠鏡「むりかぶし」を用いて行う。夏季休暇期間中の集中講義式で行う。	集中講義
自64	自然環境と土木工学	2	2-0	1~4	後期	比較的身近な自然環境の仕組みを特に生態学的な視点から解説する。そして、防災と環境保全の関係、環境保全のための土木工学的技術、開発の環境影響とその評価手法等について解説し、自然環境と人との多面的な相互関係とそこでの土木工学の役割について考える機会を提供したい。	
自65	生物資源利用とサイエンス	2	2-0	1~4	前期	身の回りの生活に関わる農薬・医薬、食品、発酵についてオムニバス方式で講義する。その他、生化学・生命科学に関わる事、特に社会的に注目され問題になっている事を平易に概説する。	
自66	食料・農村・環境概論	2	2-0	1~4	前期	世界と我が国の食料・農村の現状と地球環境問題の把握を通じて、食料生産と農村環境の関わりについて理解を深め、それらの諸問題と解決にむけた取り組み等を学習する。授業では、座学と課題発表等を通じて、実例に即して、食料・エネルギー問題と地球環境への対応について学習する。	
自71	ヒトの健康科学	2	2-0	1~4	前期	人体の構造や働きを学習し、次いで健康を阻害する諸因子について学習する。すなわち食事、運動、環境社会と健康の関係や、ひとのかかりやすい疾患について、性、年代別に精神的疾患も含めて概説し、疾患を予防し、健康を保持する方法を教授する。健康を害した者の治療法、看護法についても概説する。	
自91	自然系特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
自92	自然系特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：健康運動系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
健01	健康・スポーツ科学	2	2-0	1~4	前・後	健康とスポーツに関する科学的知見に基づいて、身体運動と人間との関わりについて、健康科学およびスポーツ科学などの各教員の研究領域の立場から論述する。	同一学期に運動・スポーツ科学演習と並行して履修可能。
健02-1	運動・スポーツ科学演習 (バドミントン)	2	0-2	1~4	前又は後	運動種目別の歴史やルール、個人技術やチーム戦術を、ビデオ教材や実際の運動場面を活用しながら理論的に理解するとともに、各種スポーツ種目の技術戦術の習得・向上をねらいとする。また、体力養成や傷害予防、トレーニング法や健康増進などのスポーツ科学の基本的理解を深めながら、生涯に渡ってスポーツを続ける意義を理解することを目的とする。	同一学期に数種の科目を履修可能。但し、同一科目番号は、同時履修及び再履修できない。
健02-2	〃 (テニス)						
健02-3	〃 (卓球)						
健02-4	〃 (ゴルフ)						
健02-5	〃 (サッカー)						
健02-6	〃 (フットサル)						
健02-7	〃 (バレーボール)						
健02-8	〃 (バスケットボール)						
健02-9	〃 (ハンドボール)						
健02-10	〃 (水泳)						
健02-11	〃 (ダイビング)						
健02-12	〃 (空手)						
健02-13	〃 (琉球舞踊)						
健02-14	〃 (ソフトボール)						
健02-15	〃 (野球)						
健02-16	〃 (ニュースポーツ)						
健02-17	〃 (ラート)						
健02-18	〃 (アウトドアレクリエーション)						
健02-19	〃 (ウェイトトレーニング)						
健02-20	〃 (エアロビックスダンス)						
健02-21	〃 (フォーク・ソールダンス)						
健02-22	〃 (マラソン)						
健02-23	〃 (動作療法)						
健02-24	〃 (インドア・スポーツ)						

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 一般総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総01	脳の発達と人間	2	2-0	1~4	前又は後	脳の構造・機能・発達と文化や教育との関連について述べる。	
総02	認識の仕組み	2	2-0	1~4	前又は後	我々が物事を見聞き、理解するメカニズムは、どのようになっているのだろうか。このことについて、心理学、生理学、情報工学などの側面から、多面的に論ずる。	
総03	環太平洋地域の文化	2	2-0	1~4	前又は後	太平洋を取り囲む諸地域の共通性に目を向けつつ、歴史・文学・芸能・文化等の内容を含む総合的な海洋文化論を展開する。	
総04	ヨーロッパの文化と社会	2	2-0	1~4	前期	ヨーロッパ、特に英国における文化と社会の諸問題—宗教、階級、教育移民等—について概説し、ステレオタイプ化されている英国の国民性について、検討を加える。	
総05	ヨーロッパの歴史と伝統	2	2-0	1~4	後期	16世紀から20世紀までの歴史資料を基に、現代英国社会の歴史的ルーツを探る。	
総06	アメリカの文化と社会	2	2-0	1~4	前・後	米国社会の生成、発展、構造、病理等について、社会科学を中心に言語歴史、文化、哲学、教育心理、宗教学等の学際的分野から概説的に解明する。	
総08	現代青年の心とその病理	2	2-0	1~4	前期	登校拒否、スチューデント・アパシーなどの思春期・青年期特有の発達障害を、実際の症例を呈示しながら概説する。	
総09	科学と社会	2	2-0	1~4	前・後	自然科学が社会との関係でいかにあるべきか、多面的に取り上げる。	
総10	住まいの科学	2	2-0	1~4	前・後	気候風土に適した快適な住居とはどのようなものか、安全性、保健性、耐久性及び利便性など住宅の性能について概説する。	
総12	環境の保全	2	2-0	1~4	前又は後	身近な環境に着目し、川、緑、廃棄物などとの関わり方、生活のあり方を具体的に調べ考察することにより、環境を保全しながら生きていくための考え方を学ぶ。	
総14	環境問題	2	2-0	1~4	前期	沖縄の自然破壊、身の回りから地球環境まで、様々な環境問題についての講義を行う。	
総15	熱帯の科学	2	2-0	1~4	後期	地球の熱帯ベルトの意義・熱帯理解のはじまり・熱帯の気候・熱帯環境などについて、主に地理学、気象学的立場から概説する。	
総17	情報科学概論	2	2-0	1~4	前・後	文系、理系、工系といった枠組みを超えたいわゆる境界領域を取り扱う学問分野の一つとして講義を行う。情報化社会の特質やその社会に与える影響、情報活性能力等について講義を行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 一般総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総20	ヒトの科学と人間の医学	2	2-0	1~4	前期	今、医学・医療は大きく変化を遂げつつある。その変化は、医学・医療の内部からだけでなく、幅広い自然科学領域の研究成果や高度な工学的技術の進歩との関わりの中からもたらされるものである。本講義では、基礎医学領域の研究者がそれぞれの分野を概説しつつこれらの点に触れる。	
総21	動物実験の基礎	2	2-0	1~4	前期	動物実験の必要性、実験動物についての基礎知識、動物実験結果の人への外挿、バイオハザードの予防等を概説し、適正な動物実験についての概念を会得することを目的とする。	医学科の学生は、1年次に履修することが望ましい。
総22	生命科学入門	2	2-0	1~4	前期	近年、生命科学分野の研究の発展は著しく、その成果は、ヒトを含む生物の全遺伝情報の解読、遺伝子組換え生物の産業利用、再生医療技術の臨床応用、など、私たちの身近な話題として取り上げられている。本講義は、文系の学生も含めて大学生が常識として知っていなければならない生命現象の基本的知識を習得することを目的とする。分子、細胞、臓器組織、個体の各レベルの知識に加え、健康の維持、生態系のありかたについて概説するとともに、その社会的意義について考察する。	
総23	大学とは何か —大学の自治と大学人の責任を考える—	2	2-0	1~4	前期	①大学の自由と自治と民主主義の歴史 ②今日の大学を取り巻く状況と大学の現状および問題点 ③琉球大学における自由と自治と民主主義の自己点検も踏まえた大学の社会的説明責任（アカウンタビリティ）と自浄能力・自浄活動 ④大学の自由と自治と民主主義の今後	
総25	先端情報工学概論	2	2-0	2~4	前又は後	情報工学に関する最新の技術及びその周辺の理論的・学術的な背景を平易に概説する。	
総27	死と哲学の知	2	2-0	1~4	前期	死とは何かを考察する。具体的には、哲学者たちが死の不安、恐怖を克服するためにどんな議論を展開しているかを、特に古代ギリシアを中心に生きていながら、その考察を進める。そして同時に、現代の終末期医療のあり方、脳死、安楽死、尊厳死等の問題についてもできる限り検討したい。	
総28	科学と擬似科学	2	2-0	1~4	後期	明らかに科学的とは言えないような有名な擬似科学的理論をいくつか取り上げて、それらがなぜ科学理論と認められないのか、それらをどのような観点から評価すべきなのか等々を科学哲学の考え方を参照しながら検討する。	
総31	キャリア概論	2	2-0	1~4	前又は後	学生の就職活動や職業選択に資するため、業種別に人事担当者等又は学内の教員による講義を通して、もって社会における様々な職場や将来性、望ましい人材等について理解を深めさせる。	
総33	人口と食糧	2	2-0	1~4	後期	21世紀は急激な人口増加で、食糧難が一層深刻になってくると思われる。本講義では、地球規模での食糧生産の現状と今後の展望について、生産、加工、流通等の面から講義する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 一般総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総34	ボランティア入門	2	1-2	2~4	前期	ボランティアの現状、社会的意義や課題、心得などについて講義し、併せて主に社会福祉関係分野における見学実習などを取り入れて体験的理解もはかり、ボランティア活動への正しい理解と適切な導入をめざす。	
総35	職業と人生	2	2-0	1~4	後期	各界で活躍している人を招いて、「職業と自己の人生との関わり」、「企業で要求される能力」、「現場での諸課題」等多様な事項について話してもらい、学生に「職業と人生」について考える手がかりを与える。	
総36	囲碁の世界	2		1~4	前期	囲碁のルール、マナー、基礎的な技術について学ぶと同時に、受講者同士の対局を通じて、判断力、分析力、洞察力、集中力を養う。指導に際しては日本棋院の全面的な協力を得る。初心者を対象とするため、受講対象は囲碁の未経験者に限定する。	集中講義
総38	災害と安全	2	2-0	1~4	後期	台風、地震、大雨等の災害が発生するメカニズム及び社会基盤と生活に対する影響と対策さらには安全についての基本的な考え方について概説する。	
総39	生活空間のビジョン	2	0-2	1~4	前期	私達の身近な生活空間の様々な問題を理解し、そこから浮かんでくる将来像(ビジョン)のあり方を論じる。特に子ども、子育て親子、高齢者、ハンディキャップ、コミュニティ、生活空間づくりへの参画をキーワード生活とし、現地調査、取材、発表、討論を中心に進める。	
総40	地域企業(自治体)お題解決プログラム	2	2-0	1~4	後期	講義名のとおり、企業の更なる事業推進のためのプロジェクトを企画立案し、これを実践する。授業の中では、地域と密着した活動を行う企業の課題を実際に一緒になって解決するためのプロジェクトを実施する。プロジェクトの具体的な内容は、講義の中で意見交換しながら、決めていく。 授業方法：「セミナー」・「グループワーク」・「フィールドワーク」・「プロジェクト実践」により進める。	
総41	若者の雇用環境	2	2-0	2~3	前・後	学内外の招聘講師の講話から、現在の若者を取り巻く雇用環境の変化や、社会人として必要な能力の理解をし、自らの卒業後の職業観・人生観のヒントとする。 授業の方法：①厚生労働省の推奨するキャリアプランニングプロセスに沿ったテーマでの講話の中からキャリア形成の手順を学ぶ。②テーマによっては授業の中で多くの学友や企業人、他者とのかかわりを通して視野を広げるグループディスカッションを行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 一般総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総42	キャリア形成入門	2	2-0	1~2	前・後	これまでに学んだ、そしてこれから大学・社会で学ぶ知識を「活用する力」を高める授業である。ポイントは「教えてもらう」自分から「自ら考えて行動する」自分づくり・習慣づくりである。そのために、「知識を伸ばす」以上に「意識を変える」ことに重点を置き、琉球大学で独自に開発した「(*)CIS行動学」を中心に授業を行う。同時に、新テキスト「10社の事例に学ぶ：地域が求める人材」を使用し、「今、沖縄社会が期待する人材像」を把握する。また、3社以上の企業参加による授業がある。 (*)CIS = Communication, Imagination and Sense」の意。	
総44	ボランティア体験学習	2		1~4	前・後	国立沖縄青少年交流の家の企画事業に通算30時間以上、ボランティアとして参加し、この経験についてレポートを作成する。ボランティア参加に当たっては、交流の家が開催する「ボランティア・セミナー」を受講し、ボランティアに必要な基礎知識を学ぶ必要がある。	集中講義
総45	キャリアと学生生活	2	2-0	1~4	前期	双方向型の授業の中で自己理解を試みる。テキスト+ワークでセルフチェックを行い、「社会で必要となる”チカラ”をつけるための行動計画を作成する。	
総46	環境インターンシップ	2		2~4	前又は後	NPOや企業、行政などの現場を体験することで、環境の仕事について理解を深め、将来のキャリアプラン形成の一助とする。	・総合環境学副専攻登録者が望ましい。
総47	総合環境学概論	2	2-0	2~4	前期	環境問題について、人文、社会、自然の各分野から学術的、総合的なアプローチを行う。	
総48	エンカレッジメント —大学の学びと未来—	2	2-0	2~4	前・後	振り返り・・・自分史の作成、今の学びをえる・・・コミュニケーションスキルの涵養、ディベート、集団討論、プレゼンテーション技法、将来に向けて・・・「未来日記」の作成チャレンジ。	
総49	生活習慣病予防および健康増進	2	0-2	1~4	前期	本カリキュラムは、生活習慣病の予防の重要性について啓発を行い、生活習慣の修正法を体得することを目的とする。方略として、生活習慣病、運動療法、血圧測定法に関する演習を行う。運動及び血圧測定演習の前で受講者の健康指標の変化を分析する。	
総50	大学で何を学ぶか	2	2-0	1~4	後期	学生諸君が将来における自分の役割を見つけ、大学で学んだことを社会で活かすとはどんなことか。そのためにはどうすればいいのかなどを考える教材を提供する。	
総51	観光への扉～観光学入門	2	2-0	1~4	後期	社会を構成する多種多様な産業を巻き込む観光を多面的に理解し、観光についての総合的な知識を身につける。学際的な視点で観光を科学する教員らの授業により、観光の幅広い領域と受講生の興味関心の接点を構築していく。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 一般総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総52	海外文化研修A (英語圏)	2		2～4	前期 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。「大学英語」と「英語講読演習中級」を履修済であること。その他、「英語講読演習上級」「英会話演習中級」「英作文演習中級」「英語プレゼンテーション演習中級」「TOEFL演習」「アメリカの文化と社会」(以上共通教育等科目)の受講を勧める。
総53	海外文化研修B (中国語圏)	2		2～4	前期 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。中国語関連科目を4単位以上履修済みの者。
総54	海外文化研修C (スペイン語圏)	4		2～4	前期 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	スペイン語関連科目4単位(スペイン語圏文化入門、スペイン語実践研修を必修)以上履修済であること。
総55	海外文化研修D (フランス語圏)	4		2～4	前期 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。フランス語関連科目を4単位以上履修済みで、「フランス語圏文化入門」(共通科目)か「フランス文化研究」(専門科目)を必修とする。その他、「フランス語会話入門」や「フランス語入門Ⅲ」の受講を勧める。
総56	海外文化研修E (ドイツ語圏)	4		2～4	前期 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	ドイツ語関連科目4単位(ドイツ語圏文化入門、ドイツ語実践研修を必修)以上履修済
総62	環境と文学	2	2-0	1～4	前期	文学にみられる人間と自然、人間と環境をめぐる関係性について、アメリカ文学、日本文学、西洋史の観点から考察する。	
総63	現代アジア論	2	2-0	1～4	前・後	日本に近接する東アジア地域の中国、台湾、香港、南北朝鮮、ロシア極東などのいずれかまたは全体に焦点を当て、近現代アジア地域の国際関係、各国の政治的・社会的変動を概説する。	
総64	女性と社会	2	2-0	1～4	前又は後	フェミニズムの理論と動向を紹介しつつ、新しい女性像を探る。更に、沖縄の女性をも視野に入れる。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 一般総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総65	異文化コミュニケーション入門	2	2-0	1~4	後期	異文化間コミュニケーションの基礎理論を踏まえ、文化的背景を異にする言語が接触した時に起こる種々の言語現象や非言語的行動(表現・身振り・対話者間の距離等)及び価値観・発想・思考形式の違いによって生じる文化摩擦現象の考察を通して、本国及び諸外国の言語文化や社会に対する理解を深める。	
総66	キャリアデザインとジェンダー	2	2-0	1~4	前又は後	本学の女性研究者や、企業や自治体、NGO・NPOなど諸分野で活躍する女性をロールモデルとして講師に迎え、現代社会における男女共同参画やジェンダーに関わる問題点や自らのキャリアデザインについて考える。	
総70	地域システム計画論	2	2-0	1~4	前期	地域とは何か?計画とは何か?を考え、地域における自然環境、社会環境をシステムとして理解し、如何にして計画を作るのかについて講義する。特に、計画システムにおけるシステムズ・アナリシスの考え方およびこれと各種数理モデル等の関係について考究する。	
総71	情報セキュリティ概論	2	2-0	1~4	後期	情報通信技術が急激に発展する時代における情報セキュリティをどのように捕らえるか、具体的な対処法を中心に授業を展開する。また、セキュリティ対策要素技術の理解と様々な最新モデルを通して受講者個人の考え方を重視し議論を深める。	
総72	環境エネルギー計画	2	2-0	1~4	前期	この科目は、エネルギーの消費が地球の気候変動に及ぼす影響を説明し、世界規模、日本国内、沖縄県内のエネルギー消費実態を理解し、それらに対する対策として、新エネルギー及び省エネルギーに関する政策及び最新技術を講述するものである。	
総73	環境影響評価概論	2	2-0	1~4	後期	道路建設や埋立て等の多様な開発行為は人間社会にとって必要であるが、同時にそれによる自然環境及び生活環境への影響は無視できない。この環境への影響を予測評価し、適正な開発に導く制度とその技術について講述する。	
総82	海外職場体験	2		1~3	前期 (集中)	海外での職場体験や人的交流体験を通して、国際感覚を身につけることにより海外への就職機会の拡大や社会貢献の意識向上に繋げる。帰国後は報告会等を実施し、他学生の意識向上にも繋げる。 受講希望者は指定の様式のエントリーシートを提出し、就職センターが実施する面接質問と併せた総合評価により、受講者を決定する。事前研修3回(各4時間)、約8日間の在外研修、事後研修2回(各4時間)、成果発表より成る。	
総91	総合特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総92	総合特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総93	総合特別講義Ⅲ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目 高学年次総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
高総01	現代社会の課題 —21世紀への挑戦—	2	2-0	3~6	前又は後	高齢化社会の抱える課題（経済の活性化、健康・医療、年金・福祉、生きがいなど）について、とりわけ日本社会と長寿県沖縄に焦点を当てて議論する。	
高総03	倫理総合討論	2	2-0	3~6	前～後	与えられた18のテーマについて医学的のみならず社会・倫理的、法・経済学的見地から討論を行う	教員は、調査・学習や討論のすすめ方を指導する。前学期から後学期にかけての通年科目。
高総08-2	地震と防災	2	2-0	3~6	前又は後	地震は自然災害のなかでも、人為被害も含めて被害規模が最も大きく、社会生活を大きな混乱に招く。しかも、地震予知もまだ不可能であり、特に世界の地震の20.7%が集中する日本国にあつては、日本列島それ自身が自然の震動台といっても過言ではない。そのような自然環境のなかで、人間が生活を営む建物の地震被害を軽減化する最新の技術を中心に、耐震工学と防災工学の立場から概論的に講義する。	
高総10	大学と産業の振興	2	2-0	3~6	後期	大学はこれまで多くの教員が産学官共同研究で多くの実績をあげてきている。その中から沖縄の特性に立脚した熱帯・亜熱帯系の薬用生物、マリノバイオロジー、熱帯医学、太陽・風力エネルギー、海水利用などの研究や新産業導入を目的とする情報、バイオテクノロジーや新素材関連の産学官連携の共同研究について具体的な内容を紹介し、受講者に科学技術による社会貢献のすばらしさを教導する。	
高総11	総合環境論	2	2-0	3~6	後期	環境問題は、言うまでもなく現代世界的に大きな問題であり、様々な分野から真剣にとりくまなければならない。本講義は、それぞれ専門の学問領域を研究している後年次の学生に、それぞれの学問領域の立場から環境問題に対してアプローチしてもらい、発表し、受講者全員で議論するものである。	
高総12	キャリアデザイン実践	2	2-0	3~6	後期	アセスメントツール（職業診断テスト）を使いながら、自己理解を試みる。クラスにチームを作り、協同作業の中から探求力、分析力、コミュニケーション力を身につけさせる。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉01	平和論	2	2-0	1~4	前又は後	国内で稀有な戦争・戦後体験を持つ沖縄の現代史と現状を踏まえながら、アジア・世界の平和について考える。	
琉02	核の科学	2	2-0	1~4	前期	核の基礎的な原理、その平和利用軍事利用、又人間及び環境に及ぼす影響などを自然科学的、医学的、社会科学的立場から概説する。	
琉04	適応の心理	2	2-0	1~4	前・後	琉大の理念である「自由と平等、平和と寛容」との関連の中で、青年期の適応の問題をとりあげる。学生同志の自由な討論の中で、適応的に、よりよく生きていくための方策について考えていく。	
琉05	沖縄の基地と戦跡 I	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の基地や沖縄戦の具体像をとおして平和を考える。	
琉06	沖縄の基地と戦跡 II	2		1~4	前又は後	沖縄の基地や沖縄戦案内の内容・教材・方法を教員と学生同士で共同でつくりあげる。	沖縄の基地と戦跡 I を履修していること。 集中講義
琉13	近代沖縄の社会と表現	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の文学をめぐって、近代の文学がいかに多様多彩であったか、又、近代日本文学史が何を切り捨ててしまったかといった問題をみていく。	
琉14	琉球の文学	2	2-0	1~4	前・後	琉球（沖縄）に伝承されてきた歌謡や劇をとりあげ、琉球のことばによる表現について概説する。	
琉18	地域の科学	2	2-0	1~4	前・後	地域と人間生活の関わり合いにおける社会科学的課題について、多角的な講義を行う。	
琉19	地域文化論	2	2-0	1~4	前・後	地域形成に占める文化の役割を、「沖縄」という地域を主体にして、通時的・共時的に扱う。	
琉22	琉球の自然	2	2-0	1~4	前期	琉球の島じまをとりまく大気のこと、島の地形・地質・陸水のこと、島に生息する植物・動物のことなどを中心に、琉球列島の自然を紹介し、その特性について考察する。	
琉23	琉球の自然保護	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の自然保護について多角的に学ぶ。沖縄の自然破壊の現状を知り、開発との関係も考える。	
琉24	沖縄のサンゴ礁	2	2-0	1~4	後期	沖縄のサンゴ礁について、幅広く物理、化学、生物、地学、海洋学の諸分野にまたがり、学際的見地から講義を行う。この海域のサンゴ礁についての総合的な理解を深めることによって、サンゴ礁域における生命の多様さ、生命の重さと保全の大切さ、自然環境の維持の必要性の重要さを考える。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉25	琉球弧の自然誌	2	2-0	1~4	前・後	地学の視点でとらえた琉球弧の特徴や特色をわかりやすく講義する。複数の地学系教員が担当し、琉球弧に関する具体的なテーマ（琉球弧の位置づけ、琉球弧周辺で起きている地学的現象、地形と地質、成り立ち（地史）、海底地質、琉球弧を取り巻く海洋と気象など）について概説する。	
琉26	琉球の地理	2	2-0	1~4	前期	琉球諸島は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった特色ある自然事象に加え、琉球文化圏といわれる独特の文化圏を形成してきており、島嶼経済、サトウキビ農業、といった人文事象についても特色ある地域である。この亜熱帯島嶼環境下にある琉球の非常に特色のある地理的事象について概説する。	
琉27	沖縄の農業・農村と農地水環境	2	2-0	1~4	前期	亜熱帯島嶼に位置する沖縄の農業生産活動や農村整備について理解を深め、農地水環境の現状を知り、それらを総合的に学習する。授業では、座学と課題発表等を通じて、実例に即して、沖縄の食料・農業生産と農村整備と農地水環境の現状と対応について学習する。	
琉32	ことばと文化	2	2-0	1~4	前又は後	小説・戯曲等の創作活動に励んでいる作家及び演劇活動に携わって第一線で活動している人々を講師に招いて、話を聞く。	
琉33	現代の国際関係	2	2-0	1~4	前・後	現代の国際社会を理解するための基礎的概念を紹介し、現代の諸課題をその歴史的背景をも含めて紹介・検討する。	
琉41-2	琉球アジア研究入門	2	2-0	1~4	前又は後	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは、中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、それぞれの地域の文学や言語を比較・対照しながら、いま何をどのように研究をすすめているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか、などなど具体例をあげて講義する。	
琉42	移民論	2	2-0	1~4	前又は後	戦前・戦後を通じて国内でも有数の移民県であることを踏まえて沖縄の移民の歴史と現在を考察する。	
琉46	沖縄の政治と社会	2	2-0	1~4	前・後	近現代の沖縄の政治と社会について、日本の国内政治や国際的環境との関連において考察する。	
琉47	三線と島唄	2	1-1	1~2	前期	沖縄の三線に関する基本的な知識を学び、沖縄の「三線文化」を考る。また三線を弾き、島唄を謡う実技も併せて行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉48	うちなーぐちあしび	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄語(うちなーぐち)を話すだけでなく、読んだり、聞いたりすることによって、沖縄語に親しむ機会を提供する。沖縄語普及協議会発行の『はじめらな うちなーぐち』を使って、まず沖縄語の基本文型の習熟を図る。さらに『沖縄ぬ暮らしとう昔話』などを使って、沖縄語に親しむ。	
琉49	亜熱帯-西表の自然	2		1~4	前期	亜熱帯西表島には多くの貴重な動植物が様々な生活を営んでいる。これらの生き物に体験学習的講義という形で接してもらう。亜熱帯林、マングローブ林等を歩き、生物観察とその調査法等を学ぶ。また、イリオモテヤマネコを主とした大型動物については、豊富な観察に基づいた講義を聞いてもらう。	集中講義
琉50	沖縄の学力と教育	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄は残念ながら全国でもっとも学力の低い地域として知られている。そのうえ、近年の教育改革(ゆとり教育、学習内容の3割減、完全学校週五日制等)により全国的な学力低下が指摘され、そうした意味では、沖縄は二重の学力問題を抱えているといえる。本講義では、そうした沖縄の学力問題を近年の教育改革の動きを踏まえながら、社会学的、心理学的に明らかにしていく。	
琉51	琉球語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	奄美諸島から沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島にいたる琉球列島の諸方言は、マイノリティの言語であるが、その発音や文法の基礎とその上に多様な表現を身につけつつ琉球語の特質を学ぶ。	
琉52	琉球語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	奄美諸島から沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島にいたる琉球列島の諸方言は、マイノリティの言語であるが、その発音や文法の基礎とその上に多様な表現を身につけつつ琉球列島の各島々の方言の特質を学ぶ。	
琉53	沖縄の染めと織り	2	2-0	1~4	前期	沖縄の人々は、独特の自然・気候風土や地理的特性、歴史などを背景に豊かな工芸文化を育んできた。そのなかでも「染織」では、島や地域ごとに様々な素材・技法によって多様で魅力的な多くの染織物が生みだされてきた。その歴史をひもときながら、沖縄の生活のなかでつくり出されてきた染織物について実物や写真で紹介するとともに、現在の沖縄の伝統染織・手仕事の抱える課題についても考察していく。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉54	沖縄の歴史入門	2	2-0	1~4	前又は後	琉球王国が日本という近代国家へ併呑される過程（「琉球」から「沖縄」への変容）から、沖縄戦を経て、米軍統治期の「戦後」、日本への「復帰」、現在の「沖縄問題」に至るまでの沖縄近現代史に関する基礎的な歴史事象を概説する。また、沖縄近現代史をめぐる歴史学上の論争について、最新の研究動向を紹介しつつ適宜取り上げることによって、歴史学的な観点から現代的な課題へのアプローチについても講じる。	
琉55	琉球学入門	2	2-0	1~4	後期	琉球（ここでは、奄美群島と沖縄県全域とする）の歴史、文化・言語、自然環境等における地域特性とそこから派生する様々な事象について概説し、琉球地域の多様性について理解させる。	
琉56	琉球の自然と人	2	2-0	1~4	前・後	多様で個性的な島々からなる奄美・沖縄という地域を事例にして、自然と人間のローカルなかわりについて考える。特に「亜熱帯」「サンゴ礁」「島嶼」に焦点を当て、主として文化生態地理学・景観地理学の観点から検討する。自然と向き合って生活を営んできた奄美・沖縄の人々の生活文化について、関連写真や図を多く用いた視覚的な授業を目指す。	
琉57	現代沖縄史	2	2-0	1~4	前又は後	戦後の沖縄島及び周辺離島を中心とした政治経済及び社会的な問題を取り上げる。特に沖縄の統治構造の変化と変容に焦点をあて、米軍支配から日本への施政権の返還、その後の沖縄振興開発体制の形成と変容及びその政治的含意を解明していく。	
琉71	現代沖縄地域論	2	2-0	1~4	前又は後	「沖縄」という地域が有する諸特性や様々な地域課題について、様々な角度から総論的に扱う。講義は、学内教員に加え、地域の諸課題に通じた外部講師を招聘し、ディスカッション等を通じて地域社会に関する理解を深める。	
琉72	地域課題フィールドワーク演習	2	0-2	1~3	後期	地域が抱える課題について、事前調査やフィールドワーク等を通してその実態を知り、解決策について考える。課題ごとにチームを編成し取り組み、最終的にプレゼン報告会において取組の成果を発表する。	集中講義
琉91	琉大特色特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に掲示する	集中講義
琉92	琉大特色特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に掲示する	集中講義
琉93	琉大特色特別講義Ⅲ	2		1~4	前又は後	開講時に掲示する	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：情報関係科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
情01	情報科学演習	2	0-2	1~4	前・後	「情報処理技術を研究・教育の道具として使いこなせない大学は、もはや存在できない。」との危機意識をもって、コンピュータリテラシー（コンピュータ活用能力）の向上を目的とした演習を行う。	
情11	日本語表現法入門	2	2-0	1~4	前・後	基礎的な日本語の音声、文法、語彙表記、文体等を学習するとともに、レポートの作成や発表等を演習する。講義と演習を併用することによって、日本語の表現力を豊かにすることをねらいとする。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外101	大学英語	4	2-2	1~4	前期	国際社会に適応できる英語能力の育成を目的とし、様々な分野内容に関して各種英語教材の実践的聴解・読解を行なうとともに、基礎的かつ実践的な訓練を行なう。	
外102	英語講読演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	人文系、社会系、自然科学系のテーマを扱った教材を使用し、パラグラフ・リーディングに重点を置いて、英文の主旨・大意を適確に把握する訓練をし、基礎的な読解力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。
外103	英語講読演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	英語講読演習 中級 より程度の高い英文教材の講読を通して、専門外書講読への応用・発展の手がかりを与える。	大学英語を履修済みであること。英語講読演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外104	英会話演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できるコミュニケーション能力を育成するために、英会話の基礎的な知識と理解を基盤として、それをさらに実践的に応用できる能力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。
外105	英会話演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できるコミュニケーション能力を育成するために、ディスカッションやディベートなど英会話演習 中級 より程度の高く洗練された英語運用能力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。英会話演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外106	英作文演習 中級	2	1-1	1~4	前期	日常的・社会的な話題について、自分の考えを1~2パラグラフにまとめ、文法的に正しい英語で表現する力を養う。	大学英語を履修済みであること。
外107	英作文演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	日常的・社会的な話題について、自分の考えをエッセイ・レポートにまとめ、国際的に適応できる英作文能力の養成を行なう。	大学英語を履修済みであること。英作文演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外108	英語プレゼンテーション演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	音声・文字による英語メディアや、専門分野の英文教材の理解を元に、英語でのプレゼンテーション能力を養う。	大学英語を履修済みであること。
外109	英語プレゼンテーション演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	英語プレゼンテーション演習 中級よりさらに高度な音声・文字による英語メディアや、専門分野の英文教材の理解を元に、リサーチした情報を英語で論理的にプレゼンテーションする能力を養う。	大学英語を履修済みであること。英語プレゼンテーション演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外110	TOEIC演習	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できる英語運用能力の指標であるTOEICの試験の受験を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。
外111	TOEFL演習	2	1-1	1~4	前・後	アメリカ、カナダをはじめとした、英語圏の留学に際し、英語運用能力の証明として不可欠なTOEFLの受験を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。
外112	英検準1級演習	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できる英語運用能力の指標となる英語検定試験の準1級の取得を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外113	特定英語課題演習Ⅰ	2	1-1	1~4	前・後	映画、演劇、音楽、文学などを通じて、イギリス、アメリカ、アイルランド、カナダ、オーストラリアをはじめとした英語圏の文化に対する深い理解力を養成する。	大学英語を履修済みであること。
外114	特定英語課題演習Ⅱ	2	1-1	1~4	前・後	国際的舞台で活躍する際に不可欠な観光、ビジネスなど特定の分野で使われる英語を実践的な訓練を通じて習得させることを目的とする。	大学英語を履修済みであること。
外201	ドイツ語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	ドイツ語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、ドイツ語に親しむ。	
外202	ドイツ語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	ドイツ語入門Ⅰの続き。	原則としてドイツ語入門Ⅰを履修していること。
外203	ドイツ語入門Ⅲ	2	2-0	2~4	前期	ドイツ語入門Ⅱの続き。ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてドイツ語入門Ⅱ、またはインテンシブドイツ語Ⅰを履修していること。
外204	ドイツ語入門Ⅳ	2	2-0	2~4	後期	ドイツ語入門Ⅲの続き。	原則としてドイツ語入門Ⅲを履修していること。
外205	ドイツ語会話入門Ⅰ	2	2-0	2~4	前期	聴き、話すという面からのドイツ語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてドイツ語入門Ⅰ、Ⅱ、またはインテンシブドイツ語Ⅰを履修していること。
外206	ドイツ語会話入門Ⅱ	2	2-0	2~4	後期	ドイツ語会話入門Ⅰの続き。	原則としてドイツ語会話入門Ⅰを履修していること。
外207	インテンシブドイツ語Ⅰ	4	4-0	1~4	前期	ドイツ語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き、話すための基礎を学ぶ。	
外208	インテンシブドイツ語Ⅱ	4	4-0	1~4	後期	インテンシブドイツ語Ⅰの続き。	原則としてインテンシブドイツ語Ⅰ、またはドイツ語入門Ⅱを履修していること。
外209	インテンシブドイツ語Ⅲ	2	2-0	2~4	前期	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンシブドイツ語Ⅱ、またはドイツ語入門Ⅳを履修していること。
外210	インテンシブドイツ語Ⅳ	2	2-0	2~4	後期	インテンシブドイツ語Ⅲの続き。	原則としてインテンシブドイツ語Ⅲを履修していること。
外211	ドイツ語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	ドイツやドイツ語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてドイツ語入門Ⅰ、Ⅱ、またはインテンシブドイツ語Ⅰを履修していること。
外301	フランス語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	フランス語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、フランス語に親しむ。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外302	フランス語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	フランス語入門Ⅰの続き。	原則としてフランス語入門Ⅰを履修していること。
外303	フランス語入門Ⅲ	2	2-0	1~4	前期	フランス語入門Ⅱの続き。フランス語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてフランス語入門Ⅱ、またはインテンシブフランス語Ⅰを履修していること。
外304	フランス語入門Ⅳ	2	2-0	1~4	後期	フランス語入門Ⅲの続き。	原則としてフランス語入門Ⅲを履修していること。
外305	フランス語会話入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	聴き、話すという面からのフランス語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてインテンシブフランス語Ⅱ、またはフランス語入門Ⅳを履修していること。
外306	フランス語会話入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	フランス語会話入門Ⅰの続き。	原則としてフランス語会話入門Ⅰを履修していること。
外307	インテンシブフランス語Ⅰ	4	4-0	1~4	前期	フランス語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き話すための基礎を学ぶ。	
外308	インテンシブフランス語Ⅱ	4	4-0	1~4	後期	インテンシブフランス語Ⅰの続き。	原則としてインテンシブフランス語Ⅰ、またはフランス語入門Ⅱを履修していること。
外309	インテンシブフランス語Ⅲ	2	2-0	1~4	前期	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンシブフランス語Ⅱ、またはフランス語入門Ⅳを履修していること。
外310	インテンシブフランス語Ⅳ	2	2-0	1~4	後期	インテンシブフランス語Ⅲの続き。	原則としてインテンシブフランス語Ⅲを履修していること。
外311	フランス語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	フランスやフランス語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてフランス語入門Ⅱ、あるいはインテンシブフランス語Ⅰを履修していること。
外401	スペイン語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	スペイン語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながらスペイン語に親しむ。	
外402	スペイン語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	スペイン語入門Ⅰの続き。	原則としてスペイン語入門Ⅰを履修していること。
外403	スペイン語入門Ⅲ	2	2-0	2~4	前期	スペイン語入門Ⅱの続き。スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてスペイン語入門Ⅱ、またはインテンシブスペイン語Ⅰを履修していること。
外404	スペイン語入門Ⅳ	2	2-0	2~4	後期	スペイン語入門Ⅲの続き。	原則としてスペイン語入門Ⅲを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外405	スペイン語会話入門Ⅰ	2	2-0	2~4	前期	聴き、話すという面からのスペイン語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてスペイン語入門Ⅰ、ⅡまたはインテンシブスペインⅠを履修していること。
外406	スペイン語会話入門Ⅱ	2	2-0	2~4	後期	スペイン語会話入門Ⅰの続き。	原則としてスペイン語会話入門Ⅰを履修していること。
外407	インテンシブスペイン語Ⅰ	4	4-0	1~4	前期	スペイン語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き話すための基礎を学ぶ。	
外408	インテンシブスペイン語Ⅱ	4	4-0	1~4	後期	インテンシブスペイン語Ⅰの続き。	原則としてインテンシブスペイン語Ⅰ、またはスペイン語入門Ⅱを履修していること。
外409	インテンシブスペイン語Ⅲ	2	2-0	2~4	前期	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンシブスペイン語Ⅱ、またはスペイン語入門Ⅳを履修していること。
外410	インテンシブスペイン語Ⅳ	2	2-0	2~4	後期	インテンシブスペイン語Ⅲの続き。	原則としてインテンシブスペイン語Ⅲを履修していること。
外411	スペイン語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	スペインやスペイン語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてスペイン語入門Ⅰ、Ⅱ、またはインテンシブスペイン語Ⅰを履修していること。
外501	中国語基礎Ⅰ	4	0-4	1~4	前期	はじめて中国語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外502	中国語基礎Ⅱ	4	0-4	1~4	後期	中国語基礎Ⅰの続き。	中国語基礎Ⅰを既に履修していること。
外503	中国語中級	4	0-4	2~4	前期	中国語基礎Ⅰ、Ⅱで修めた知識を基に、語彙を拡充し、基本構文についての理解を深め、総合的なコミュニケーション能力の基礎を養成する。	中国語基礎Ⅱを既に履修していること。
外504	中国語講読	2	2-0	2~4	後期	易しい読み物を教材とし、読解力を養成する。	中国語基礎Ⅰ、Ⅱを既に履修していること。中国語中級を履修していることが望ましい。
外505	中国語演習	2	2-0	2~4	後期	会話・スピーチ・作文等の実用的コミュニケーション能力の訓練を行う。	中国語基礎Ⅰ、Ⅱを既に履修していること。中国語中級を履修していることが望ましい。
外506	中国語上級	2	2-0	3~4	前期	種々の教材を講読し、内容を全体的に把握することに重点を置いて、読解力を養成する。	中国語講読又は中国語演習を履修済であること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外507	中国語特演	2	2-0	3~4	後期	語学演習をゼミナール形式によって行う。	
外508	中国語会話	2	2-0	2~4	前又は後	各種視聴覚教材を活用しながら、聞き取り訓練及び口頭による基礎的表現能力の訓練を行う。	中国語基礎Ⅰ、Ⅱを既に履修していること。
外509	時事中国語	2	2-0	2~4	前又は後	特定のテーマ(アクチュアルな社会及び文化現象等)にそって、様々な資料を活用しながらその国の風俗・習慣・歴史・文化に対する理解を深める。	中国語基礎Ⅰ、Ⅱを既に履修していること。
外510	中国語作文	2	2-0	3~4	前又は後	中国語の作文を学び、併せて手紙、ビジネスレター、Eメールなどの作法を学ぶ。	中国語基礎Ⅰ、Ⅱを既に履修していること。
外511	実践中国語	2	2-0	3~4	前期	中国社会における様々な状況を想定し、実践的な中国語の表現力・会話力を身につける。また、中国語圏での留学経験者に対しても、当科目を履修することで、より一層のレベルアップを図る。	外国語科目「中国語」関連科目(中国語学コース)を既に8単位以上履修していることを履修条件とする。
外601	朝鮮語基礎Ⅰ	4	0-4	1~4	前期	はじめて朝鮮語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外602	朝鮮語基礎Ⅱ	4	0-4	1~4	後期	朝鮮語基礎Ⅰの続き。	朝鮮語基礎Ⅰを既に履修していること。
外603	朝鮮語中級	4	0-4	2~4	前期	朝鮮語基礎Ⅰ、Ⅱで修めた知識を基に語彙を拡充し基本構文についての理解を深める総合的なコミュニケーション能力基礎を養成する。	朝鮮語基礎Ⅰ、Ⅱを既に履修していること。
外604	朝鮮語講読	2	2-0	2~4	後期	朝鮮語中級の続き、易しい読み物を教材とし読解力を養成する。	
外605	朝鮮語演習	2	2-0	2~4	後期	朝鮮語中級の続き・会話・スピーチ・作文等の実用的コミュニケーション能力の訓練を行う。	
外701	インドネシア語基礎Ⅰ	4	0-4	1~4	前期	はじめてインドネシア語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外702	インドネシア語基礎Ⅱ	4	0-4	1~4	後期	インドネシア語基礎Ⅰの続き。	インドネシア語基礎Ⅰを既に履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外711	タイ語基礎 I	4	0-4	1-4	前期	はじめてタイ語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外712	タイ語基礎 II	4	0-4	1-4	後期	タイ語基礎 I の続き。	タイ語基礎 I を既に履修していること。
外721	ヴェトナム語基礎 I	4	0-4	1-4	前期	沖縄でヴェトナム語を学ぶ意味と意義を模索する。 言葉に裏打ちされた歴史・文化・風俗習慣へ関心の幅を広げる。 受講生の眼が自分の外の世界に向かい、人生がアジアで拓かれ、行動と思索が国境を越えることを目指す。	
外722	ヴェトナム語基礎 II	4	0-4	1-4	後期	ヴェトナム語基礎 I の続き。	ヴェトナム語基礎 I を既に履修していること。
外723	ヴェトナム語中級	4	0-4	2-4	前期	ヴェトナム語基礎 I、II で修めた知識を基に語彙を拡充し、基本構文についての理解を深め、総合的なコミュニケーション能力の基礎を養成する。	ヴェトナム語基礎 II を既に履修していること。
外731	ラテン語入門 I	2	2-0	1-4	前期	ラテン語とはどのような言葉か。ヨーロッパの文化的伝統を支えてきた教養古典語に親しむための入門クラス。	
外732	ラテン語入門 II	2	2-0	1-4	後期	ラテン語入門 I の続き。	原則としてラテン語入門 I を履修していること。
外741	ギリシャ語入門 I	2	2-0	1-4	前期	ギリシャ語とはどのような言語か。ヨーロッパの文化的伝統を支えてきた教養古典語に親しむための入門クラス。	
外742	ギリシャ語入門 II	2	2-0	1-4	後期	ギリシャ語入門 I の続き。	原則としてギリシャ語入門 I を履修していること。
外751	ロシア語入門 I	2	2-0	1-4	前期	ロシア語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、ロシア語に親しむ。	
外752	ロシア語入門 II	2	2-0	1-4	後期	ロシア語入門 I の続き。	原則としてロシア語入門 I を履修していること。
外761	サンスクリット語入門 I	2	2-0	1-4	前期	サンスクリット語の基本的な文法事項のうち、名詞および形容詞の変化を中心に学習する。	
外762	サンスクリット語入門 II	2	2-0	1-4	後期	サンスクリット語の基本的な文法事項のうち、動詞の変化を中心に学習する。授業終了段階で、辞典と文法書を参照しながら簡単な文章が読める程度の能力を身につけることを目標とする。	サンスクリット語入門 I を履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外771	ブラジル・ポルトガル語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前 期	ポルトガル語の挨拶表現から基礎的な文法までを学習する。教師は学習項目をわかりやすく導入し、教師⇄学習者、学習者⇄学習者でオーラルドリルを行い、最後にロールプレイなどを通して学習者同士で会話の練習を行う。クラスで常に会話の練習を行うことによって同時に理解能力と伝達能力をつける。また、既習の文型を使って短文を書いたり、読んだりする能力もつける。更に、ブラジル文化を紹介しながら学習者の学ぶ意欲を育む。	
外772	ブラジル・ポルトガル語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後 期	ブラジル・ポルトガル語入門Ⅰの続き。	原則としてブラジル・ポルトガル語入門Ⅰを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：先修科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
先03	線形代数学Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	行列・行列式・連立一次方程式等を詳細に講義する。	
先04	線形代数学Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	ベクトル空間、一次変換、固有値等を講義する。	線形代数学Ⅰを履修していることが望ましい。
先05	線形代数学演習Ⅰ	2	0-2	1	前期	線形代数学Ⅰの問題解法。	理学部・数理科
先06	線形代数学演習Ⅱ	2	0-2	1	後期	線形代数学Ⅱの問題解法。	理学部・数理科
先07	統計学	2	2-0	1	前期	資料の整理、確率分布、推定・検定等について概説する。	医学科用
先08	統計学Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	確率、資料の整理、2項分布、正規分布、 χ^2 分布等。	
先09	統計学Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	推定・検定・分散分析等。	統計学Ⅰを履修していることが望ましい。
先11	微分積分学ST (スタンダードコース)Ⅰ	2	2-0	1	前期	数学系以外の学生を対象とし、具体問題の計算能力と微分積分学の応用の側面を重視して講義を行う。講義内容は極限、1変数関数の微分法と積分法である。	
先12	微分積分学ST (スタンダードコース)Ⅱ	2	2-0	1	後期	数学系以外の学生を対象とし、具体問題の計算能力と微分積分学の応用の側面を重視して講義を行う。講義内容は、2変数関数の偏微分法と重積分である。	微分積分学STⅠを履修していることが望ましい。
先13	微分積分学AD (アドバンストコース)Ⅰ	2	2-0	1	前期	数学系学生を念頭に、微分積分学の理論的側面を強調して講義を行う。講義内容は実数論、 $\epsilon-\delta$ 論法による極限、1変数関数の微分法と積分法である。	
先14	微分積分学AD (アドバンストコース)Ⅱ	2	2-0	1	後期	数学系学生を念頭に、微分積分学の理論的側面を強調して講義を行う。講義内容は $\epsilon-\delta$ 論法による級数、2変数関数の偏微分法と重積分である。	微分積分学ADⅠを履修していることが望ましい。
先21	地学実験	1	0-3	1	前・後	理科系学生を対象とする地学・気象学の基礎的実験。	
先23	地球科学Ⅰ	2	2-0	1~2	前期	おもに固体地球科学分野の基礎的な講義で、地球の構造、プレートテクトニクス、地震と火山、鉱物と岩石、火成・変成作用などを含む。	
先24	地球科学Ⅱ	2	2-0	1~2	後期	地球の水圏、大気圏に関する科学の概説。理系学生を対象とし、ある程度数式を用いた講義内容。	
先31	物理学Ⅰ	2	2-0	1~4	前期	高等学校で物理学を履修した理科系学生を対象とし、物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、主として力学を中心として行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：先修科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
先32	物理学Ⅱ	2	2-0	1~4	後期	高等学校で物理学を履修した理科系学生を対象とし、物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、主として電磁気学を中心として行う。	物理学Ⅰに引き続き講義を行うので、物理学Ⅰを履修していることが望ましい。
先33	物理学実験	1	0-3	1~4	前・後	理科系学生を対象とし、個々の実験を通して物理学の基礎的な内容を理解させる。	
先41	化学Ⅰ	2	2-0	1~4	前・後	高等学校で化学Ⅰと化学Ⅱ（あるいは化学基礎と化学）を履修した理科系学生を対象とし高等学校では履修していない化学に関する基礎事項を概説する。	
先42	化学Ⅱ	2	2-0	1~4	前・後	高等学校で化学Ⅰと化学Ⅱ（あるいは化学基礎と化学）を履修した理科系学生を対象とし「化学Ⅰ」に引き続き高等学校では履修していない化学に関する基礎事項を概説する。	化学Ⅰに引き続き講義を行うので、化学Ⅰを履修していることが望ましい。
先43	化学実験	1	0-3	1~4	前・後	無機・分析化学、物理化学、有機化学に関する基礎的あるいは教育的と思われる実験を行う。実験のテーマのいくつかは高校の授業で既になじみ深いものであり、それ以外のテーマも化学について高度の知識を必要とするものはない。	
先51	生物学Ⅰ	2	2-0	1~2	前・後	生物について、主としてマクロの生命現象の理解、生物と生物の生活の関わり、環境と生物の関わりに重点をおき、理解を深めさせる。	
先52	生物学Ⅱ	2	2-0	1~2	前・後	生物について、主としてミクロの生命現象に関わる諸現象を理解させる。	
先53	生物学実験	1	0-3	1~2	前・後	生物に関する基礎的な実験・観察。	
先61	図学	2	0-2	1~4	前期	立体を二次元に投影する図法についての理解と演習。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：転換科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
転03	微分積分学入門Ⅰ	2	2-0	1	前・後	弧度法、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数について詳しい丁寧な説明を行い、続いて1変数の微分法およびその応用について講義する。高校で「数学Ⅲ」を履修してきていない学生を対象にした講義である。	
転04	微分積分学入門Ⅱ	2	2-0	1	後期	微分積分学入門Ⅰの続き。1変数の微分法とその応用について講義する。なお、時間があれば、2変数関数の2階までの偏微分の計算、合成関係の偏微分および重積分の基本にも触れる。高校で「数学Ⅲ」を履修してきていない学生を対象とした講義である。	
転11	物理学入門Ⅰ	2	2-0	1~2	前期	高等学校で物理学を履修していない、あるいは物理Ⅰ（物理基礎）のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、数学の基礎についても留意しながら、主として力学を中心として行う。	
転12	物理学入門Ⅱ	2	2-0	1~2	後期	高等学校で物理学を履修していない、あるいは物理Ⅰ（物理基礎）のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、数学の基礎についても留意しながら、主として電磁気学を中心として行う。	物理学入門Ⅰに引き続き講義を行うので、物理学入門Ⅰを履修していることが望ましい。
転23	化学入門Ⅰ	2	2-0	1~2	前・後	高等学校で化学を履修していない、あるいは化学Ⅰ（化学基礎）のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて化学の基礎的な内容を概説する。	
転24	化学入門Ⅱ	2	2-0	1~2	前・後	高等学校で化学を履修していない、あるいは化学Ⅰ（化学基礎）のみを履修している理科系学生を対象とし、「化学入門Ⅰ」に引き続き化学の基礎的な内容を理解させる。	化学入門Ⅰに引き続き講義を行うので、化学入門Ⅰを履修していることが望ましい。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【日本語・日本事情科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	講 義 内 容	備 考
日01	日本語ⅠA	2	0-4		前 期	基本的な文法項目・文型の学習	外国人留学生対象
日02	日本語ⅠB	2	0-4		前 期	基本的な文法項目・文型の学習	外国人留学生対象
日03	日本語ⅠC	2	0-4		前 期	聴解を中心に基礎的な語彙と表現の学習	外国人留学生対象
日04	日本語ⅡA	2	0-4		後 期	ⅠAの続き	外国人留学生対象
日05	日本語ⅡB	2	0-4		後 期	ⅠBの続き	外国人留学生対象
日06	日本語ⅡC	2	0-4		後 期	ⅠCの続き	外国人留学生対象
日07	日本語ⅢA	2	0-4		前又は後	ニュースをとおして日本語を学ぶ(聴解力養成)	外国人留学生対象
日08	日本語ⅢB	2	0-4		前又は後	読解力の養成	外国人留学生対象
日09	日本語ⅢC	2	0-4		前又は後	作文力の養成	外国人留学生対象
日10	日本語ⅣA	2	0-4		前又は後	ⅢAの続き	外国人留学生対象
日11	日本語ⅣB	2	0-4		前又は後	ⅢBの続き	外国人留学生対象
日12	日本語ⅣC	2	0-4		前又は後	ⅢCの続き	外国人留学生対象
日13	日本語Ⅴ	2	0-4		前 期	高度な読解力の養成	外国人留学生対象
日14	日本語Ⅵ	2	0-4		後 期	Ⅴの続き	外国人留学生対象
日15	沖縄事情Ⅰ	1	2-0		前 期	沖縄の歴史、社会、文化、習慣等について学ぶ	外国人留学生対象
日16	沖縄事情Ⅱ	1	2-0		後 期	Ⅰの続き	外国人留学生対象
日17	日本事情Ⅰ	1	2-0		前 期	日本の歴史、社会、文化、習慣等について学ぶ	外国人留学生対象
日18	日本事情Ⅱ	1	2-0		後 期	Ⅰの続き	外国人留学生対象
日19	日本語ⅠD	2	0-4		前 期	会話練習を通じた口頭表現能力の養成	外国人留学生対象
日20	日本語ⅡD	2	0-4		後 期	Ⅱの続き	外国人留学生対象
日21	日本語ⅠE	2	0-4		前 期	日本語(ひらがな・カタカナ・漢字等)の文字構成、語彙の体系的な学習	外国人留学生対象
日22	日本語ⅡE	2	0-4		後 期	日本語ⅠEの内容を段階的に進行させる	外国人留学生対象
日23	ビジネス日本語Ⅰ	1	0-2		前及び後	ビジネス日本語によるコミュニケーション能力、日本のビジネスに対する知識と社会人基礎力を身につける	外国人留学生対象
日24	ビジネス日本語Ⅱ	1	0-2		前及び後	ビジネス日本語Ⅰの内容を段階的に進行させる	外国人留学生対象
日25	日本・沖縄文化Ⅰ	1	2-0		前 期	初級レベルの学習者を対象に、日本と沖縄の歴史・社会・文化・習慣について学ぶ。	外国人留学生対象
日26	日本・沖縄文化Ⅱ	1	2-0		後 期	Ⅰの続き。	外国人留学生対象